

4 中間投入

東京都の財・サービス部門の中間投入率は46.7%、本社部門のそれは31.4%である。また、産業平均では44.1%であり、これは全国の産業平均を3.5ポイント下回っている。

都内生産額 159兆1012億円の投入構造を見ると、生産活動に必要な原材料等の中間投入率は44.1%（70兆2277億円）であり、本社部門8兆4658億円、財・サービス部門61兆7619億円となっている。これは全国の中間投入率47.6%に比べ3.5ポイント下回っている。

これを財部門、サービス部門、本社部門にわけてみると、財部門の中間投入率は60.3%であり、全国の63.2%を2.9ポイント下回っている。サービス部門の中間投入率は、42.9%であり、全国の35.2%を7.7ポイント上回っている。財・サービス部門では中間投入率は46.7%となり、全国の48.8%を2.1ポイント下回っている。本社部門の中間投入率は31.4%であり、全国の29.2%を2.2ポイント上回っている。産業平均では中間投入率は44.1%で、全国の47.6%を3.5ポイント下回っている（図4-1、4-2）。

中間投入率を産業別にみると、財・サービス部門では、鉄鋼（74.2%）が最も高く、ついで電気機械（72.6%）、輸送機械（71.7%）、鉱業（66.1%）、化学製品（65.8%）となっており、これらはいずれも60%を超えている。これに対し、最も低いのは不動産（30.7%）で、次いで教育・研究・医療等（34.1%）、通信・放送（37.2%）及び商業（38.1%）となっており、これらはいずれも40%を下回っている（図4-3）。

また、これら中間投入の内訳を東京都財とその他地域財とに分けてみると、東京都財の投入の比率が高いのは、財・サービス部門では不動産（85.9%）が最も多く、次いで通信・放送（79.5%）、金融・保険（77.7%）、商業（71.3%）となっており、これらはいずれも70%を超えている。これとは逆に東京都財の投入が少ない部門は、鉄鋼（14.2%）、次いで金属製品（34.2%）、建設（34.3%）、輸送機械（36.0%）、食料品（36.5%）となっており、これらはいずれも40%を下回っている（図4-4）。

図4-1 投入比率(東京都)

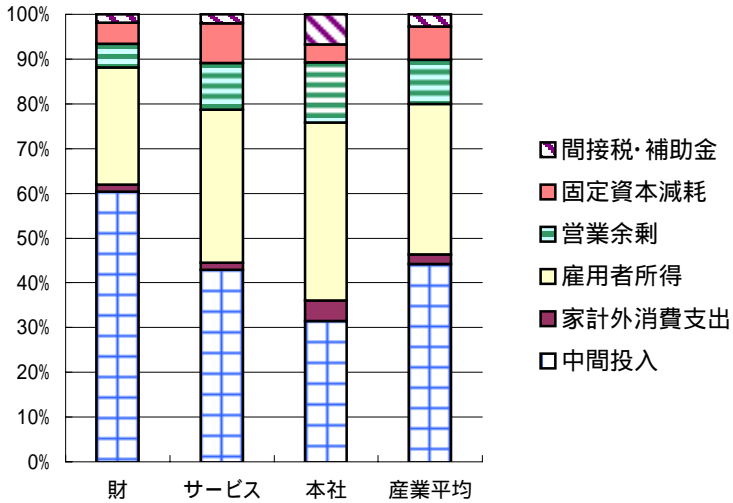


図4-2 投入比率(全国)

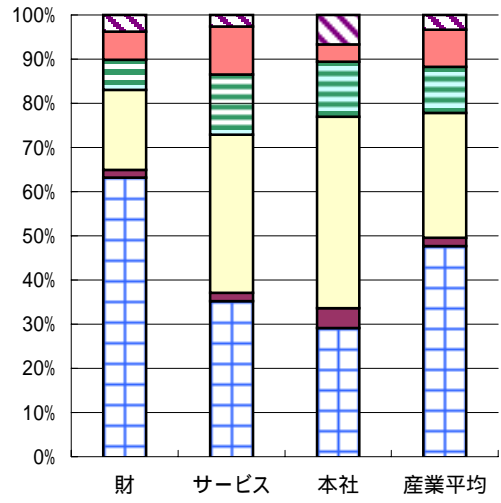


図4-3 中間投入率

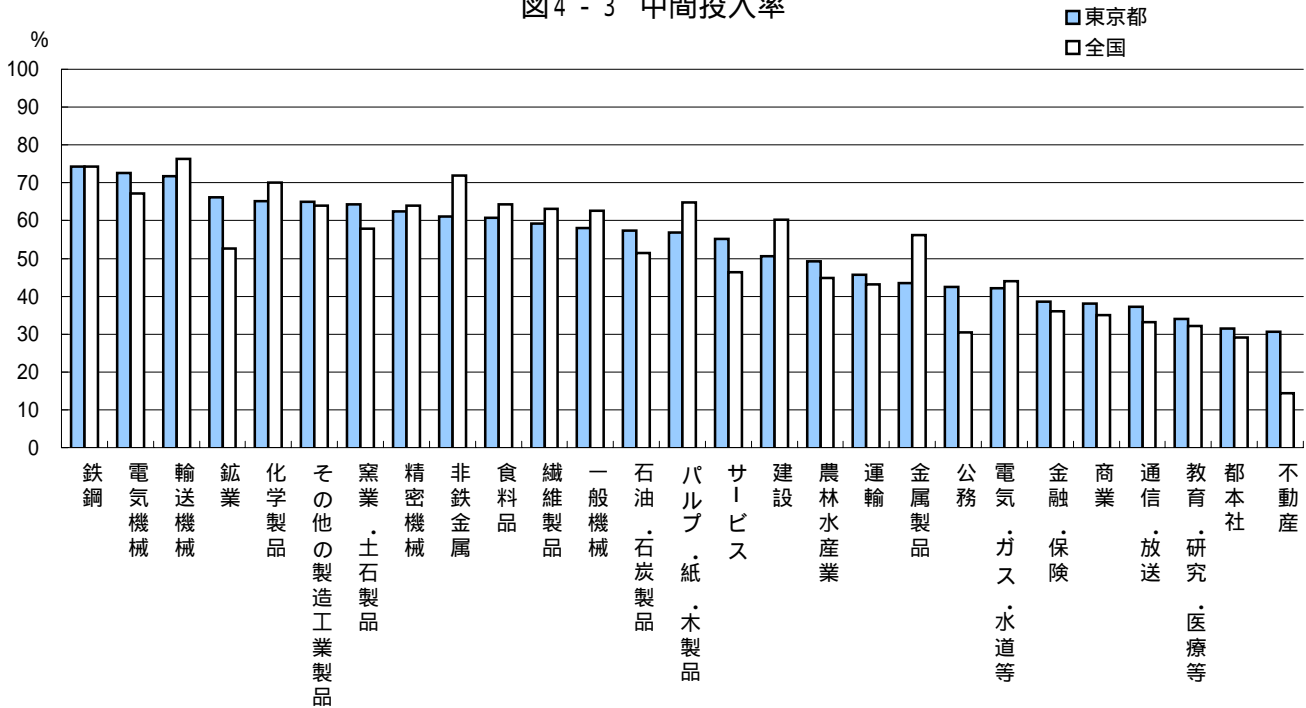


図4-4 東京都財の投入比率

